

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：若手研究者キャリア支援センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標 1) 講義・セミナー、講演会・企業との交流会、個別面談・ドクター・キャリア相談及びインターンシップで構成されたキャリア支援プログラムの実施により、ポストドクター及び博士後期課程等学生へのキャリア支援の充実を図る。	1) 講義・セミナー、講演会・企業との交流会、インターンシップ面談、キャリア相談及びインターンシップで構成されたキャリア支援プログラム「ドクター・キャリアサポート・プログラム」により、ポストドクター及び博士後期課程等学生へのキャリア支援を行った。講義については、前期に「実践的博士人材特論Ⅰ」及び「ビジネス英語」、後期に「実践的博士人材特論Ⅱ」、「英語プレゼンテーション」の計4科目を開講した。セミナーについては、就職支援・業界研究など各種セミナーを18回開講した。その中では、対人応力向上、キャリアバイタリティの創造、リーダーシップに関する特別セミナーを各2回開講し、「人間力」の面からも能力開発を図った。講演会については、学内で前期1回、後期1回開催し、文部科学省関係者や他大学教員、企業担当者を講師に招聘した。前期の開催では、講演者と学内教員による、博士人財の活躍のためのパネルディスカッションを行った。また、会の冒頭では、学長が教員の意識変革の重要性を強調するスピーチを行った。その他、インターンシップ報告会を後期に1回、学会でのキャリア支援セミナーを前期1回、後期1回開催した。企業との交流会については、前期1回、後期1回開催した。合同会社説明会の企業は、前期9社、後期10社を招聘した。また、前期の開催では、ポストドクター5名、博士課程学生5名によるプレゼンテーション及びポスターセッションを行い、自身の研究内容をアピールした。面談・相談業務については、インターンシップ面談をセンターで実施した他、理学部・農学部・資源植物科学研究所の3部局にキャリア相談拠点を設置し、定期的に対応した。インターンシップについては、ポストドクター8名、博士後期課程学生1名を企業等に派遣した。以上により、養成開始者も着実に増えており、ポストドクター及び博士後期課程等学生へのキャリア支援の充実を図ることができた。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 講義・セミナー、講演会・企業との交流会の実施状況	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 1) 文部科学省補助事業である「ポストドクター・キャリア開発事業」を着実に実施すると共に、各研究科等と連携して、博士後期課程等の学生及びポストドクターへのキャリア支援体制の充実を図る。 2) 主に指導教員や研究主宰者を対象に、学内教職員への意識啓発を図る。	1) 「ポストドクター・キャリア開発事業」については、講義・セミナー、講演会・企業との交流会、インターンシップ面談、キャリア相談及びインターンシップで構成されたキャリア支援プログラムを実施した他、センター機能の構築、学内教員への意識啓発活動、学内各関係組織や学会との連携、企業への啓発活動など行い、事業計画書に記載の項目及び内容を着実に実施した。各研究科等との連携については、講演会等を共催で開催し、学内教員の参加を広く呼びかけた他、パネルディスカッションを開催した。以上により、博士後期課程等の学生及びポストドクターへのキャリア支援体制の充実を図ることができた。 2) 定期的な研究室訪問活動や講演会の開催により、学内教職員への意識啓発を図った。講演会では、他大学教員やセンター教員による講演を通して事業理解を求めた他、冒頭に学長が教員の意識変革の重要性を強調するスピーチを行った。その他、教員とポストドクターに対して意識調査アンケートを実施し、現状把握を図った。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 「ポストドクター・キャリア開発事業」実施状況	
【総括記述欄】	
インターンシップ派遣、企業等への就職者数について改善の余地があるが、2年が経過し、今後は年間計画の10名を超過達成できる方向性が見えてきた。引き続き、長期インターンシップ希望・登録者を増やすために、①学内のポストドクターの掘り起こしを行うと共に、気軽にキャリア相談を受けられる拠点を設け、②他大学のポストドクターに本学プログラム活用の働きかけを行い、③JREC-INIによる公募等による広報活動を充実させ、ポストドクターへの働きかけを増やす。また、ポストドクターのキャリア選択の幅を広げるために、講演会、セミナー、研究室訪問、キャリア相談等により、啓発活動を継続して実施する予定である。	